

「カノープスの観測地(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

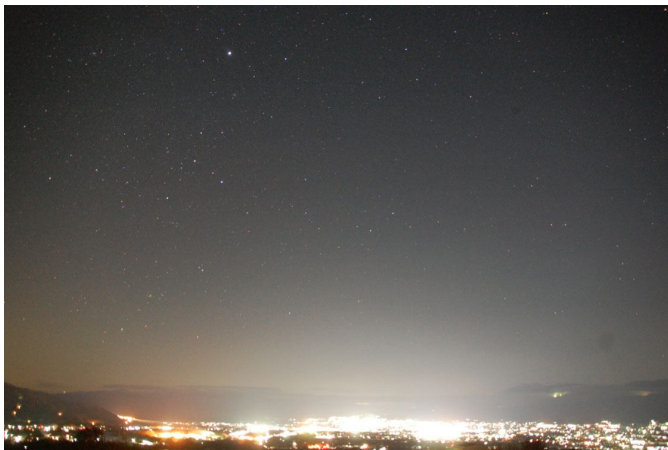
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

計算上は小諸市北郊の観測地で、カノープスの撮影はできそうだと。念のために、天文シミュレーションソフトで、1月上旬のカノープスを表示してみた。



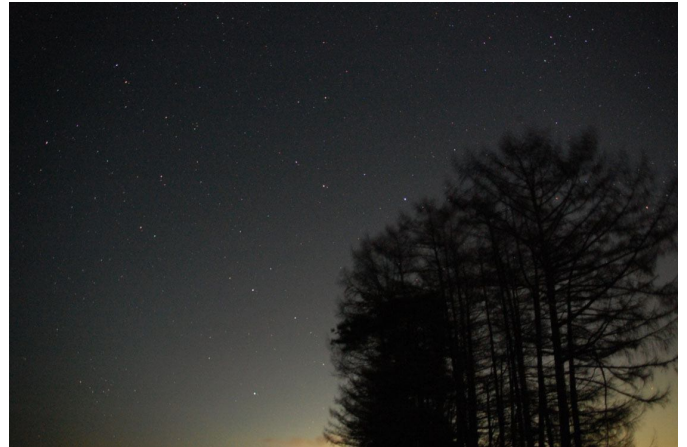
これは「ステラナビゲーター」と呼ばれる、天文シミュレーションの定番で、さまざまな機能を搭載している。こうしたロケーション探しで最も役立つ機能は、「地形データ」である。日本の特定の地点(経緯度の度・分・秒単位まで入力)から見た地形を正確に表示できる。シルエットと実景(昼の風景)の両方の表示が可能だが、天体観測の場合、特定の地点・日時に「ある恒星が見えるか見えないか」が重要なので、地形はシルエット表示にしてみた。カノープスは確かに表示されている。



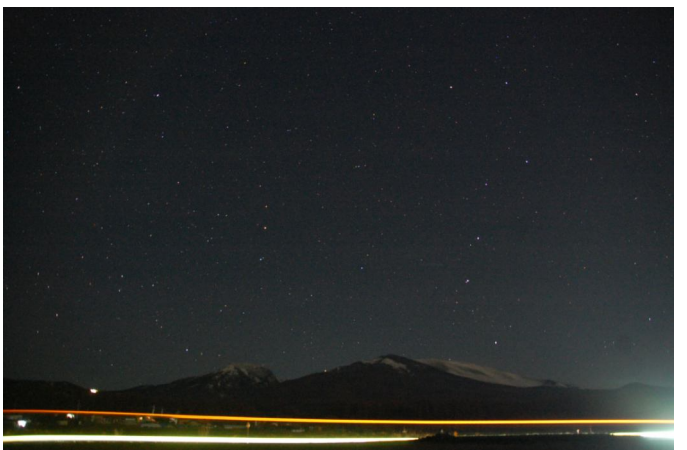
実際に1月上旬に現地で撮影してみた。左上の輝星はおおいぬ座のシリウスである。佐久市の灯火が思いのほか明るい。これは参ったと思った。



子午線(真南)付近を拡大してみた。最初Aがカノープスだと思ったが、これは「とも座γ星」(三等星)だった。カノープスはBの位置にあるはずが、どうやら低い雲がかかっている。雲の切れ目が少しオレンジ色に光っているが、これがカノープスによるものかは、判別できなかった。



この晩は快晴で、「カノープスの位置以外」はまったく雲がなかった。1月にカノープスが見えるのは深夜なので、東の空には早々と「春の星座」が昇ってきた。落葉松の左上を駆け上がるのは「しし座」である。



北側には浅間山が見える。浅間の右上から昇る「北斗七星」も実に美しく、撮影に来て損はなかった。